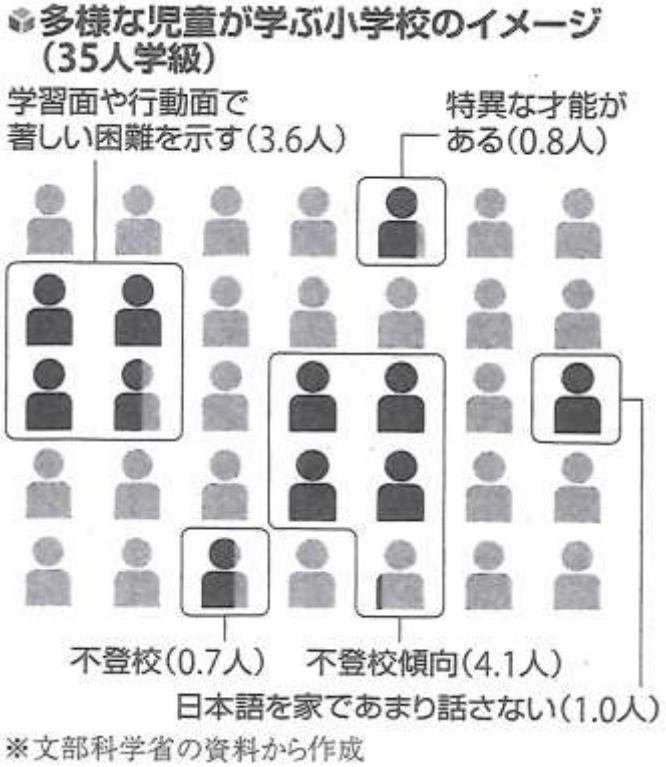
Chairman's Correspondence

「日本の小学校教育の現状です」

先日文科省の発表した日本の小学校の現状が，読売新聞に下記の図表とともに掲載されていました。
地域によって外国人児童が多い地域があったり，また農村部，都会ではかなり様子が異なったりするのですが，日本全部を一律に平均でならすと下図になります。これを見て私も驚きました。



日本では一クラス（国公立小学校は法定で 35 人）のうち学習や行動面で著しい困難を示す児童が 3.6 人。不登校が 0.7 人。不登校傾向が 4.1 人。日本語を家であまり話さない児童が 1 人。特異な才能のある子が 0.8 人となっています。
多様なこども達を抱えてクラス運営に取り組んでおられる先生方のご苦労がしのばれます。

しかしそういう世の中で我々は，各教科の専門性を高めていく努力を惜しまず，ぶれることなくひとつの方針を打ち出し，「人格形成＝人間性知能」と「才能教育＝多重知能」の育成に励む使命があるとも言えるでしょう。

Chairman's Correspondence

畏怖される存在

児童や保護者に責められて自信喪失におちいる学校教師の共通項は「自分自身，模倣したくなるような教師に出会ったことがない。」ということだそうです。
また，一部上場の大企業の社長になった人に聞くと，ほとんどが30代に模倣したくなるようなすばらしい上司に恵まれていたそうです。上司が仕事のやり方や失敗談などを折に触れて指導したり，叱ってくれたり，時折話してくれた雑談が人生の知恵として大きな意味をもっているということでしょう。

ダイヤモンドはダイヤモンドでしか磨けないのだそうですが，「人は人でしか磨けない。」という言葉もあります。人は人から学ぶことが一番大きいものです。今の時代，畏敬（敬い，恐れる存在。心理学では超自我　対象といいます）する存在がなくなってきました。

昔の小学一年生に「そこに落ちている紙くずを拾いなさい。」と言うと素直に従ったものです。ところが今の小学一年生の子どもの中には「僕が落とした紙くずではないから僕には関係ない。」と言う子が出て来たと新聞に書いてありました（リリーにはおりませんが）。
そこで教師や親が引いてしまうのが諸悪の根源だと心理学者の国分康孝先生は言います。「拾いなさい。」と迫る気概が必要であると著書に書いておられます。

間違ったことをしたら怖いが，尊敬できて，自分を理解してくれ，いつも守ってくれる。
ああいう人になりたいと言う出会いがもてることは人生の宝であると思います。
親はそうありたいものですし，学校の教師にも戒めたいと思います。